

□ 対
談 □

神戸とミュージカル

高木
木史

六輔

★
放送作家

宝塚歌劇團演出家



「ミュージカルは文句なしに楽しい
ものなんや」と高木さん

「秋に神戸の百人部屋・新川を舞台にミュージ
カルをつくろうと想をねっています」と永さん

治安維持に「歌」を
利用した伊藤博文

高木 どうもしばらくでした。宝塚はどうですか。

永 アイスミマゼン。少女歌劇つ

てのにいまだに馴染めないんです
(笑) 今日もずいぶん前の方でみ
たんだけど、なんだか照れくさく
つて(笑) 舞台の方あんまりみな
いで、ショウ・ナンバーになると
ホッとして顔を上げるつてぐあい
なんです。大路三千緒さん何だか
ジッと睨んでた、ちっとも舞台み
てくれないじやないのつて顔して

高木 いやア、楽屋じや、永さんは
たいへんな人氣ですよ。衣裳の

女の子なんか、永さんの作品も素
適だけど、永さん自身がチャーミ
ングな人なんだなんてネ、ワイワ
イ話してるんですよ。(笑)

永 知らないからいえるんですよ
(笑) 東京のSKDもちょいち
よいみるんですけど、やはり生理的
に好きになれないところがあるん
です。去年NKDの演出した時には、
あんまりてこずっちゃったので、
死んじゃおうかと思つた(爆笑)

だって、僕は口が悪くって何でもドンドン言っちゃう方でしょ、だから気に入らないと「辞めちゃえ」と怒鳴る、するとほんとにさっさと帰りそうになる（笑）これには困つてしまつて追つかけて行つて「どうもすみません。帰らないで下さい」（笑）あの時はほんとに弱つちやいましたよ。扱いなれない人達だったもんで。

ところで今日の「港に浮いた青いトランク」はじめ高木さんが宝塚で新川を舞台にしたもの演るつて聞いたときドキンとしちゃつて、あさきを越されちゃつたか、なんて思つて、ちょっとみるのがわかつたんですよ（笑）

高木 そうですか。こっちでも永さんの関西留学は早くから知れわたつて、何かしらん永さんが

新川のこと調べてるらしいよつて

つてずいぶん前から考へてたんで

神戸じゃ、みんな知つてんの。

す。

高木 いや、そうですか。その百人部屋ていうのはいつ頃のことですか。

永 そういう呼び名がついたのは川部落になるところまでの話なんで高木さんのとは少し内容がちがつてくるんです。とぼけて知らん顔して調べてたんだけどなア（笑）

でも去年の夏から秋にかけてはずいぶん歩きましたよ。いろんなことが分つてきましてね、新川部落の前身といふのかな、昔の福原のそばに百人部屋ついて、貧民窟つていうか貧民収容施設のようなものがあつて、特別な世界をつくり出していましてね。そこを舞台にして書いたら面白いだろう

労働力が必要になつてくる、それを知つた貧民が続々と神戸の街に流れこんで来てそういう人々でふくれ上つてしまうんです。当時それを28才の伊藤博文が開の浦という相撲とりに命じて収容施設を作る、これが百人部屋です。昼間働かせて、夜は酒と歌という生活で、伊藤博文の政策としては治安維持に「歌」を大いに利用したと考えられますね。だからあそこじや、日本全国の民謡が歌われたと考えたんです。

高木 宝塚じゃ、そこまで深くつこんでは演れませんよ。

永 それから新川は部落といつても一般的いわゆる部落とはちがつてあらゆる世界でつまはじきされ仲間はずれにされた人々の寄り集りつてことなんです。だから水平社関係の運動よりもむしろ、賀川豊彦のキリスト教の方がバツと受け入れられてしまうんですね。

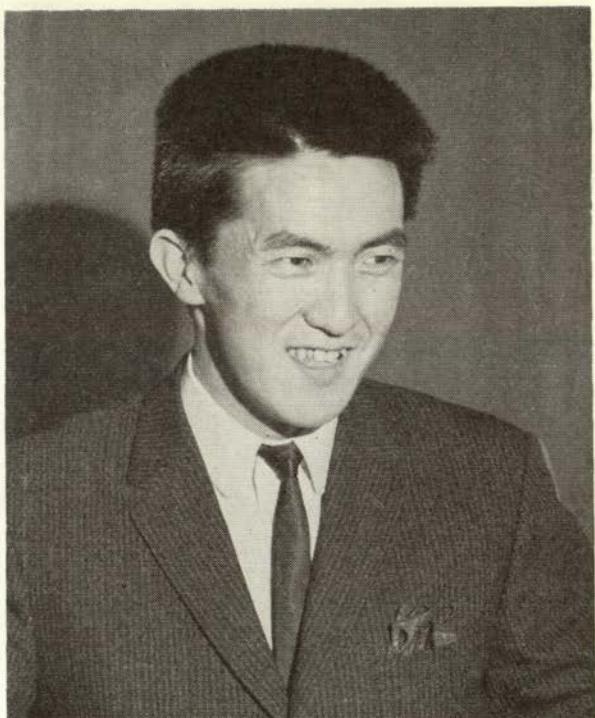
高木 新川も戦後あんな風な広い道路ができるしまつて、昔の面影がうすいですねえ。

永 しかし、今日も舞台でバラケツなんて言葉が飛び出してきて（笑）とっても懐しかったなア。

高木 神戸の老人みたいなことをいう（笑）

永 若い女性とはつきあってない





証拠です（笑）

路線のついた現代劇の
タカラヅカミュージカル

高木 今度の舞台で麻薬がでて来ますでしょ。あれ最初ずいぶん迷つたんですよ、麻薬なんていうと、宝塚の「清く正しく」のモットーに反するのじやないかって思つてね（笑）それで宝石の密輸にしようかいうたら神戸新聞の煙専一郎なんかが「神戸でいうたら何が何でも麻薬を出ささないかん」というんですよ（笑）

まあ、従来の宝塚ミュージカルといいますと、永さんが「夢であいましょう」で演られたこんな長いつづけまづけ（爆笑）とパリ情緒が主だったんですが……。

永 「夢あい」ご覧になつたんで

すか。あれは高木さんが見てないようになると、「せねばならぬ」って歌なかなかいいですね、とっても感心しからなかった。ああ、またひとついものが減っちゃった、チキショウウがいたりするところちらが嫌になつちゃいますからね。

あの「何々するのだ」つていうのと「せねばならぬ」つて歌なかなかいいですね、とっても感心しからなかった。ああ、またひとついものが減っちゃった、チキショウウがいたりする（笑）この間もネ、クラシックのリサイタルで大中めぐみさんの作曲による漢文調の歌を聞いて同じこと思ったんです。しかしらすんば』って歌なんだけど、『すんば、すんば』ってとっても口調がよくってね、こういうのも新らしい行き方ですよね。僕はいいものを他人が先に取っちゃうのが口惜しくって口惜しくって（笑）

高木 楽屋じゃ、あのまづ、でキャラキヤア言つてましたよ。僕もあれには笑つたね（笑）そんなわけで宝塚じや現代劇はタブーだつたのが、今度で3本目を迎えたわけなんです。最初が「東京の青い空」次が「虹のオルゴール工場」そして今度「港に浮いた青いトルンク」なんですが、やつと演る方もお客様の方も慣れてきたという感じですね。男性を舞台上に上げるという問題なんかもいろいろあつたのですが、結局、舞台があつて観客があるっていうことに変り

高木 僕は永さんのピリッとした新鮮な詩にいつも感心してゐるんですよ。あの「遠くへ行きたい」なんかいいですねエ。一べんたづねよう思つてたんだけど、ああいういいキャラチフレーズ一体どうして見つけるの。僕なんかいつも作詩で苦労ばかりしてゐるんですけど、僕は作詩つていて、ちゃんと詩を書いたことないんです。い

はないつて割切つてしまひましたね。だからようやく見当がついてきましたように思います。今度の舞台の汚れ役でも、みんなはりきつて演つてますよ。

永 たしかに、高木さんのそういう割り切り方つてものが舞台の人達にも十分浸透してきたって感じを受けましたね。同じバタ屋でもハリキッテ汚れてる人はみてて気持ちがいいけど、まだ少し迷つてる人がいたりするところちらが嫌になつちゃいますからね。

つも中村八大がやってくれるんで
僕の書いた散文を彼が編集作詩し
てくれるんです。

高木 いや、そうですか。いいな
あ。僕らの場合、演出も作詩も何

もかもやらないからで、たいへ
んなんです。僕がいっしょに
元君がね、こんな歌になりませ
んと言うてみんなカットしてしまう

なんてことがよくあるんですよ。
それでいつもケンカです。(笑)

永 僕は自他共に許すおしゃべり
だから(笑)、若い女の子でもお
年寄りでも、相手としゃべって
われながらふといことしゃべっ
てるなつて思うと、何でもメモし
て取つとくん。そして、自分

でもスゴクいい詩だなつて気にい
つた詩はぜつたい誰にも渡しませ
んね。大切にしまつて、活字

にして小さな本にする(笑)すれば
らしい詩にはそれ自体に美しいメ
ロディが想像できるもんだと思う
んですよ。だからだらないメロ
ディーなんかに汚されてたまるか
なんて思つて。(爆笑)

高木 永さんね、詩つくって、い
い言葉が見つかると、これはい
い歌になるぞつて直感することあ
りますか。

永 いえ、そういうことはぜんぜ
ん。僕ね、割り切っちゃつてるん
ですよ。つまらない詩でもいい曲
いい言葉には必ずいい曲もつくと
思うね。だからすばらしい言葉を
見つけることが第一やと思つてま

永 八大とは早稲田の学生の頃か
らのつきあいでですが割合うまく行
つてゐる方でしようねエ。まるで夫
婦のようなもんですから、どうし
ても離婚しなければってとこまで

はやつてゆこうと思ってます(笑)
たしかに相性というものは、作詩
者と作曲家の間でもありますね、
芥川也寸志さんと組んだことがあ
るんですけど、君のはメロディの
つく詩じやないつて言われちゃつ
て、とっても悲しかった(笑)そい
で、話の筋は僕の今まで、詩は岩
谷時子さんと替つちやいました。
僕の詩を好きだつて言つて下さる
人もいる反面、せんせん受けつけ
てくれない人もいるんだなつて思
いましたよ。

坂本九に読ませたい 芸能百年史

坂本九に読ませたい

高木 永さん、またたいへんなこ
とはじめたのね。朝日新聞の芸能
百年史。関西のことが中心になつ
てるんで、僕らにはうれしいね。

永 最初、秋の舞台を演るために
いろいろ調べてたら、何だか次か
ら次へと興味がわいてきて広く浅
くといふことにかけては負けませ
んから、ずいぶん広がつちゃつ
て。そこで朝日新聞の方で、そこ
まで調べてんなら出しなさいつ
てことで、ああいう形になつてしま
つたんです。

高木 あれだけ調べるの、たいへ
んでしょう。日本ほんどの芸
能が関西から興つてるということ
根本的にはどういうことなんですか。
結局、大阪の町にはサムライ
といふ非人間的な馬鹿の数が少な
かったからでしょうね。(笑)漫

才、落語、歌舞伎、新国劇、新派、
みんな関西が発祥地になつてます
ものね。まあ、大道芸人や浪花節
語り、歌舞伎、能、狂言にいたる
まで、あらゆる芸能を一度ズラリ
と並べてみて、大道芸人も團十郎
も同じ次元で眺めてみたいつてわ
けです。僕達の前の時代の人々
が、一体どんな風に音楽やお芝居
を扱つてきて、また大衆はそれを
どのように受けとめてきたかとい
うことを探りたいんです。宝塚な
ら宝塚の果してた役割を芸能史
の中から抽出してみて、それをい
ただきたいんです。その上で、今
後、自分達が何を創り出したらい
いかを考えてみたいと思って。

高木 なるほどね。歴史を逆のほう
で考えるということ、こりやあ
なかなか意義深い仕事ですね。
永 実際にテレビなんかで、どん
なくだらないことを演つても、何
千人つて人が見ちやうんですね
(笑)はつきり言つて、ふざけ
ようが、セリフ忘ようが、何千万
の目は見てるんですよ。こんな馬
鹿な話つてないと思いましてね。
とってもガマンできない。でも調
べてばかりいても現場の仕事がお
ざなりになりますでしょ、だから
僕は故郷であるテレビへ帰る
つもりですけど、その時、何かをお
みやげに持つて帰りたいんです。
高木 それにしても、今の若い人
は古典を知らなすぎますね。うち
の学校でもミスタンゲット、橋薰
久松一世を知らない者がほとんど
ですよ。ミス・タンゲットだと思
つてゐる。(笑)

永 そのとおりですね。今の若い
人達は、読んだり、見たりするも
のがあまりにも多すぎるんです。



服飾 KEI の店

生田区三宮町3丁目57
大丸前服部宝生堂眼鏡店2階
TEL (33) 75550

メガネをかけたとき



女性が若くなる!
美しさが際立ってくる!
課長さんは部長に、部長さんは
重役にみられる!
どことなく奥深い人柄を
感じさせる!
そういうメガネ専門

モリカワ

三宮・京町筋(センター街にある)
神戸クーポン歓迎・TEL 33-7134



イタリア料理

イタリア

生田新道 TEL ⑬0376

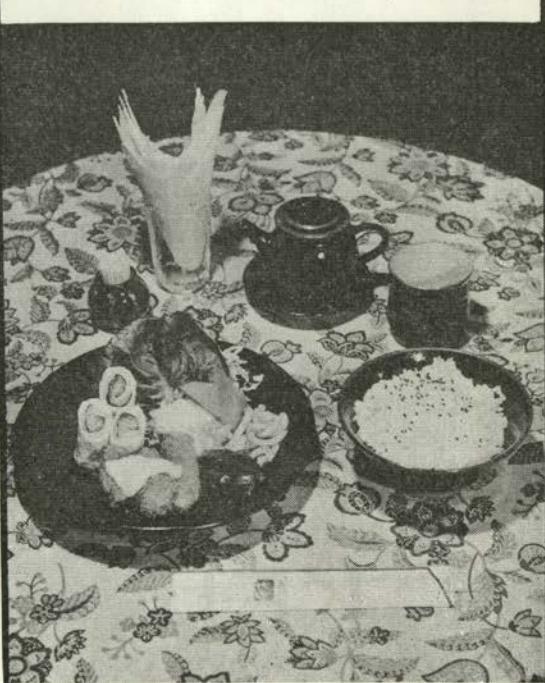
日曜日から土曜日まで

毎日献立が変ります
グリル喫茶

バラエティに富んだ
たのしいお食事
杉のサービスランチ



150円 11:00 am - 20:00 pm



元町通3本高砂屋2階 TEL ⑬7368

だからいいものにふれる機会が少い。若いタレントに聞いてもあの亡くなつた花柳草太郎さんの名前だけは知つても舞台はみてませんからね。あの芸能史も、坂本九で代表される日本の若いタレント達に読ませたいと思って書いています。他の誰よりも彼らに教えこんで、引つ張つていくのは僕達だと思いますよ。宝塚の場合、初めつからグループで結成されていますけど、僕らの場合、いざ僕が「集まれ!」って声かけたとき、さつと集まつてくれる、そういうグループが欲しいですね。今の段階じゃ、一人一人をつかまえておくのに苦労します。

神戸でランデブーできたら世界一幸せな恋人達です

高木 僕らの場合、宝塚ってことで、いろいろ制約されることもありますがね。それにしても、神戸もずいぶん歩かれたでしょうね。ええ僕はトチカン(土地勘)の六つて言わせて、初めての街でもたいてい見当つけ歩いていちゃうんです。もっとも時々、トがはずれちゃつたりしてね(爆笑)。でも、神戸の町つてどうですか、うまいもんの店も大分覚えられましたか。

永ええ、おかげ様で、いろいろお世話して下さる方がありますとも気に入っちゃつて、今に年とつたら家族全部で引越しして来ようなんて真剣に考えてます。ずいぶん日本中旅行して歩いたんですね。山のある町つてステキだな。

僕がまだ独身で、神戸っ子の恋人と神戸でランデブーできたらって考えると、結婚してるのが口惜しくつて(爆笑)山と海に閉まれてて、こんなにアラエティに富んだ場所はランデブーには最高の場所ですよ。(笑)

高木 あの山の手のあたりは一等地ですね、冬はあたたかいし、夏涼しい所で、食べものはおいしいときてる。僕らには戦前の神戸の方がやはり好きですがね。

高木 布引の滝の上の山へ毎朝

登る会つてのがあるでしょ、僕と起ききて、おつきあいするんですよ。あの登山会つてのには感激しちゃってるんです。

高木 昔から神戸では、鷹取山と

か修法ヶ原を裏山言うて、朝早くとカ

ードにハンコをついてもろてね、何百回、何千回という風に。

永 古本屋にも強くなりましたよ

セント一街から元町の奥の方まで

ずいぶん歩きましたからねエ。東

京の神田なんかに比べてびっくり

するほど関西は安いですね。でも

文献つていうのは実際あつてになん

ないもんですよ。一冊だけ読んで

るぶんにはいいんだけど、5、6

冊も見ると、内容がずいぶんち

がつ来て、どれが正しいのか分

らない(笑)それで、いろんな人

に会つたりもするんですが、年寄

りの漫才師なんか、話してて内に

記憶がゴチャゴチャになってて日

清戦争と日露戦争が入れ替つてた

りしてましてね。(笑)

高木 古本といふと、僕ね、「曾我物語全集」が欲しくて欲しくて、ずいぶんと探ししまわつたけどない

高木 そうそう、それ。

永 そしたら、僕って運がいいん

ですね。僕もあれ読みたくてね

ある古本屋へ何度も通ってるうち

に全部揃つちゃいましたよ。一冊

二百円で。安く手に入りましたよ。

拍手の短かい日本のお客様

永 僕とつても疑問に思つたんですが、宝塚の劇場の入口に「舞台へのかけ声はやめて下さい」とつけてあるでしょ。

高木ええ。戦前はうちには、キヤーキヤア騒いでかけ声を飛ばしたり、テープを投げたりして、た

いへんにぎやかだったんですけどね。芝居の場合は、じやまになるつ

てことで。しかしお客さんと舞台

の交流という意味では、禁止するのもどうかと思いますね。

永 僕なんか、エキサイトすると

大いに声はり上げたい方だから

(笑)一応禁止されていても、熱心

なファンは遠慮勝ちに「誰々サン

」と叫ぶでしょ、それを側にいる

人達がシラジラしい顔で見てる。

そんな情景にぶつかると、ゾッ

ーとしゃいます。かけ声かけた

い人にはそれなりの事情があるん

ですよ。そのかけ声をかける時と

書専門の店へ行つても「アチャコさんにも伴淳さんにも頼まれてんですが」て具合でね。その内に誰かがこのことを聞いて、週間新聞の掲示板に載せてくれたんですね。そしたらちょうど持つてる人がいて全部ゆずつてくれましてね、うれしかったね。あの時は、潮の掲示板に載せてくれたんですね。僕もあれ読みたくてね、ある古本屋へ何度も通ってるうち、全部揃つちゃいましたよ。一冊二百円で。安く手に入りましたよ。

いうものをちゃんと心得えている観客は、芝居の場合でも何もジャマではないと思います。

ドサ廻りのほんとに安い劇場の一座とか児童劇団の木馬座なんてのをみに行くと、あの興奮のうすこそあたりまえじゃないかと思つちやいます。笑う場面では思う存分笑つて、泣く場面にはちゃんと泣く。そして悪者が出てきたりするとみんなして「やつつけろオーヤつつけろオー」(笑)そりやあものすごい声援ですよ。これでなくちゃああ。「何々してはいけません」なんて言われると勇気を出して笑つたり泣いたり出来なくなりますね。僕、以前に「ウエストサイド・ストリート」みに行つた時「アイ・フィール・ブリティ」つて歌う場面で、そんな歌うたつちやいけない、おまえはシンガーワークで、ここにはシンガーハイでないつていうでしょ。そしたらその縫い娘が「ここにいる」つて指したのがシンガーミシンなんで僕ケタケタ笑つちゃった。そしたら誰も笑つてないので、みんなすごくつめたアい顔して僕を見てる。だからあれからウッカリここで笑うと馬鹿にされるんじゃないかなんで先に考えてしまふんです。(笑)

その点、地方巡業でみた橋幸夫のショウの演出は成功でしたよ。「プレゼンタイム」つていうのをファンのために作つて、その時間がくるまで、ファンの気持をぐつと押さえつけとくんんですね。そして司会者が「いよいよお待ちかね、皆さんのプレゼント・タイム！」て言うと、さあものすごいんですよ。一人一人舞台へ上つて来て握手したり何が入つてんのか分

らないけどきれいな包みを渡したり果ては抱きつきたり、ワーウィーキャアキャア、またそこが結構そのショウのやまになつちゃつてるんですよ、こりやいいなつて思いました。

ピンク・コーナー



ジンマシンが出そうになるコトバがあります。もちろん十人十色といいますから、人によつて症状は違うでしようが、当方と致しまる間も、牧美佐緒といった中堅クラスの人達とディズニーの映画みに行つたんですけど、二本立てで僕なんか「ウイーンの森の物語」にすっかり感動したんだけど、彼女達にはもう一本の「三匹荒野をゆく」の方が面白かったらしく、犬の話ばかりしてる(笑)おや、僕はやっぱり戦前派の感覺なんだなと思つて家に帰つて中学生の娘に聞いてみると、今や学校じゃ「ウイーン」でもちつきりだというんですよ。「三匹」の方はつて言うと「あれは小学生向きよ」と(笑)そういう彼女の読んでくれたが、「学問のすすめ」だったりして、ほんとにさっぱり分らなければいけない。一口に若い人つて言うてもゼネレーションのちがいでどうもちがうんですからね。

永 僕らは職業柄、一体こういう年代の若い人達は何を欲しているのかつてことに常にふれてなくちやならないんですけどね。だから極力若い人たちとつきあいもするし、遊びもするんだけどつきあえつきあうほど「おれもじいになつたな」としか思えない(笑)高木 内田吐夢監督の「飢餓海峡」をみに行つた時にも感じましたね。観客はほとんど同時上映の「あの雲に歌おう」の方をみに来

ジンマシンが出来ます。もちろん十人十色といいますから、人によつて症状は違うでしようが、当方と致しまる間も、牧美佐緒といった中堅クラスの人達とディズニーの映画みに行つたんですけど、二本立てで僕なんか「ウイーンの森の物語」にすっかり感動したんだけど、彼女達にはもう一本の「三匹荒野をゆく」の方が面白かったらしく、犬の話ばかりしてる(笑)おや、僕はやっぱり戦前派の感覺なんだなと思つて家に帰つて中学生の娘に聞いてみると、今や学校じゃ「ウイーン」でもちつきりだというんですよ。「三匹」の方はつて言うと「あれは小学生向きよ」と(笑)そういう彼女の読んでくれたが、「学問のすすめ」だったりして、ほんとにさっぱり分らなければいけない。一口に若い人つて言うてもゼネレーションのちがいでどうもちがうんですからね。

同じ男性ながらジンマシンを起させるコトバに「オッパイ」というのがある。恥も外聞もない初心組みのワイダンで、こんなコトバがとび出していくのなら、まだ聞き捨てるもできましようが、都会的センスを売り物のコント作家などが平気で「オッパイ」といつコトバを使つています。リュウとした身なりや、高価なパイプもこれでは台なし。趣味の悪さをバクロしたようなもので……。

だいいち、オッパイなんて大の男がいうことではない。それではどういうのか……? 日本には乳房といいうりっぱな表現がありまつたね。オッパイは赤ちゃんのもの、乳房こそ紳士の愛するもの。(T)

てるんですよ。つまり今売り出しひの西郷輝彦をね。だから僕らはどうかすると「飢餓海峡」の方を作りたがるがお客様のものを欲しがつてるんじゃないかということ

つくづく考えましたよ。

永さっきのかけ声のことに戻りますが、日本には大体拍手の習慣

つてのは明治の中頃までなかったと思うんです。ヤンヤヤンヤと膝をたたく、とか、板べりたたいて喜んだり……ことはありました

が(笑)だからこそ手に汗にぎる

なんて表現もあるしネ。日本の観客の拍手のマナーってのはまだ

本格的でなくつて、外国からやつて来たウエストサイドの連中な

んか、何が一番疲れるかっていう

と、拍手が少くて短いことだって

言っていますね。ひとつ歌が終ると向うじや、パーカーと拍手が来

てしまし止まらない。そこで舞台の彼らはゆっくり呼吸をととのえ

ながらおじきをする。そして次のシーンに入つてくれますが、日本じや、拍手の時間が短いから、呼吸を十分ととのえる間がない、みんなハアハア言つてます(爆笑)

ミュージカルは文句なしに 楽しいものなんですね

高木 なるほどね、それにミュージカルっていうものは、もっと文句なしに楽しいもんだってことをまず浸透させる必要があるのとちがいますか。大衆芸能ですからね。よくミュージカルに思想があるのこのうのうの言つてる人がありますが、あいのうのは反対だね。永ええ、ぼくもおかしいと思ひますね。

高木 ただ、アメリカからどんど

ん完成されたミュージカルが入つてくるのはいいけど、ああいうの

をみて、あれをすぐ日本のオペラ

にしようとするのは無理ですよ

ね。アメリカのミュージカルだつてそこまでくるのにいろいろ過

程があつたんですねからね。

しかし、日本じゃ、ミュージカルもこれからどんどんいろんな種類のものが生まれてこなきゃあ

うですよ。でも劇場が少いとか自由に使えないことが問題にはなりますがね。それに、ある種

の権力が僕らを自由にさせてくれない、思い通りに動けないってこともありますね。

永でも、映画の世界でも羽仁進さんだとか勅使河原宏さんがやつて新しい仕事を見てると、僕達にもやってできないことはないと思えるんですよ。そういう権力みたいなものを吹っ飛ばすぐらい、いいものを創りたいな。そし

て同じミュージカルでも、ちがつたスタッフ、キャストで売れるようになれば、理想的なんですがね。

高木 宝塚でも、いつもいつも内部の者はばかりでやるよりは、外部の人のフレッシュな感覚でやつてみると、又ちがつた味が出せるんぢやないかというアドバイスしてくれた人があるんですけどね、永さんの書いたものを僕が演出するつとはどうでしょうかね。

永僕も書く方だけだったお手伝いさせてもらいたいですね。ただし演出の方はN.K.D.でもうコリチャッタから、今度は詩だけつくつて、皆に嫌われずにするようにしたいな。皆にニコニコされたいです。(爆笑)

ピンク・コーナー

「自動車の構造は簡精に組み合

わされた数千個の部分品からなつて

おり、ちょよどそれの機能をもつ数多くの細胞から組織され

た人の身体に比せられる」これは

百科事典にある「自動車」の項の説明です。えらい学者のおつしや

ることだから間違いはありますま

い。ちょっと考えただけでも、人間にもクルマにも「排気装置」はちゃんとついています。

世のけしからね男性どもは、ご婦人のいない会合などではすぐ次

のような話ををする。「彼女は身体の手入れだけは熱心にするんだよ。ところがクルマの手入れは全然しないんだよ。」すると「一人が同じ乗りものなのにねえ」こうなる

とクルマは人間とというより女性に似ているという結論になります。

道理で男がクルマを買う場合「乗

り心地はどうだ」ということばかり聞くと思った。

また新車を買ったたら、それを花嫁にたとえて「はじめての取り扱い

いかんで運命が決まる」という哲学をいう人がある。また日ごろは女性に頭の上がらない男性に限つて、自動車レースのファンになり

やすいといふ調査もあります。それ、ブレーキに思い切り悲鳴を上げさせろ、大地を思いきり蹴とば

せ、エンジンをフルにぶんまわせ」というのも、そんな風に女性を操縦してみたい願望かな。(T)





花時計まえでの出会い。左より次郎（汀夏子）船員菅原（真帆しづき）
歌手須磨（加茂さくら）友人平野（黒木ひかる）楠（松乃みどり）



ポートタワー・花時計・回教寺院そして港の船を背景に軽快な序幕。神戸っ子とエトランゼが神戸の街を讃嘆する。

港にういた 青いトランク

作・演出 高木史朗

ほろよい気嫌で
歌うカンカン虫

作詞 高木史朗
作曲 中元清純

私は神戸の街が好きなんだ
私は神戸の街が好きなんだ
山には若い夢があふれて
海には虹の歌が渦まくよ
波止場を口笛吹きつつゆけば
ポートタワーが

ほろよい
歌うカンカン

モヤに包まれた神戸港の波止場の朝。船員、水夫、沖仲仕、商船大学生、港の娘、エトランセなどなどが、私は神戸の町が好きなんだ」と軽やかにリズムで歌い踊つて幕があがる。

私は神戸の街が好きなんだ
私は神戸の街が好きなんだ
フラーードの花時計
エキゾチックなトアロード
雨降る元町 あの三宮
ヒスイの指輪の光る支那娘
私は神戸の街が好きなんだ
私は神戸の街が好きなんだ
私は神戸の街が好きなんだ
山の手ゆけば
異人屋敷の
窓辺にたたずむインドの哲学
場末のネオンの飲み屋のあた
ヒスイの指輪の光る支那娘

神戸っ子になじみ深い宝塚歌劇団が、2月公演で神戸を舞台にしたミュージカルを上演して話題を呼んだ。作者は、神戸で生まれ神戸で育った高木史朗氏。いつか神戸を舞台にしてみたいという夢が実現したもので、「東京の空の下」「虹のオルゴール工場」につぐ現代版ミュージカル。

●神戸を舞台にしたタカラヅカミュージカル



百万弗夜景のみえる山の手にあるナイトクラブの場面。中国娘の姉妹の登場がエキゾチック神戸のムードをたかめる。



新川のバタヤ部落の場面。中央神父（上月晃）をかこんでのコーラス。左は松乃みどり右は真帆しぶき

神戸の港、市役所の見える花時計
新川部落、山手の高級アパート、異人館の並ぶ北野町、百万ドル夜景
の見えるナイトクラブなど身近かな場面が次々とくり展開される。
ストーリーは、香港から航海を終えて港に降り立った船員楠（松乃みどり）と菅原（真帆しぶき）の二人が花時計前で歌手の須磨（加茂さくら）と会う。青いトランクを持った彼女は「今日の正午に花時計前でこのトランクを渡してくれ」と香港の人々に頼まれたといふ。そこへ須磨の友達平野（黒木ひかる）が現われ、神戸の街を案内しようと誘つて、四人で出かけることになり、鞄を三宮駅に預ける。その後へ宇治川（牧美佐緒）が登場。彼は父を失い、母ミツ（大路三千緒）は新川部落でバタヤをしていて、貧乏ぐらしに嫌気がさした彼は船員に憧れて家を飛び出している。そこへチンピラ仲間のジョージが現われ青いトランクをだましとつて来たという。花壳りをして学校に通う弟の次郎（汀夏子）の提案で兄はトランクを持ち主に返すようにすすめる。

一転して、新川部落。バラック小屋では沖仲仕の宗やん（清川はやみ）や神父（上月晃）バタヤのミツたちが貧しいながら楽しく働いている。兄一郎が久しぶりに家へ帰るが母は会わない。彼は偶然出会った須磨にトランクを返そうとするが、黒めがねの男に奪い去られる。

山手の高級アパートに住む荒田未亡人（淡路通子）の一室に舞台は移り、黒めがねの男がここへ逃げ込む。フクの孫娘高校生のユリ（日夏悠理）を連れ帰つて来る

新川部落の場面。中央神父（上月晃）をかこんでのコーラス。左は松乃みどり右は真帆しぶき

二人が花時計前で歌手の須磨（加茂さくら）と会う。青いトランクを持った彼女は「今日の正午に花時計前でこのトランクを渡してくれ」と香港の人々に頼まれたといふ。そこへ須磨の友達平野（黒木ひかる）が現われ、神戸の街を案内しようと誘つて、四人で出かけることになり、鞄を三宮駅に預ける。その後へ宇治川（牧美佐緒）が登場。彼は父を失い、母ミツ（大路三千緒）は新川部落でバタヤをしていて、貧乏ぐらしに嫌気がさした彼は船員に憧れて家を飛び出している。そこへチンピラ仲間のジョージが現われ青いトランクをだましとつて来たという。花壳りをして学校に通う弟の次郎（汀夏子）の提案で兄はトランクを持ち主に返すようにすすめる。

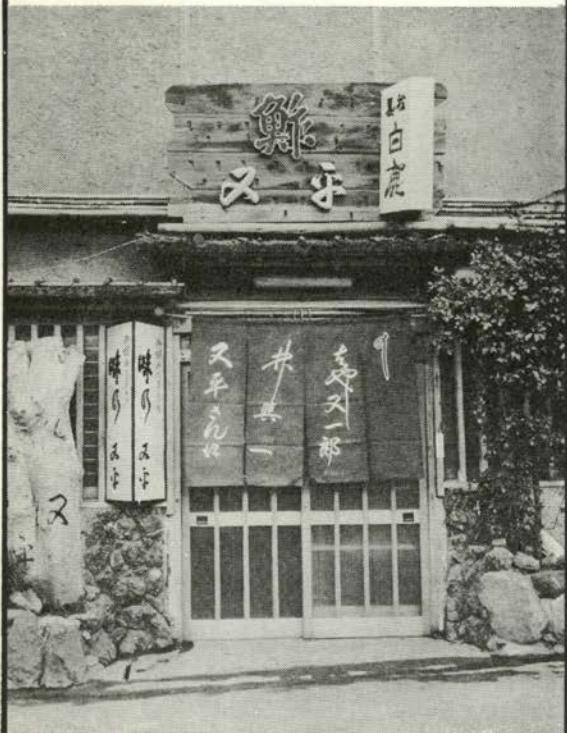
一転して、新川部落。バラック小屋では沖仲仕の宗やん（清川はやみ）や神父（上月晃）バタヤのミツたちが貧しいながら楽しく働いている。兄一郎が久しぶりに家へ帰るが母は会わない。彼は偶然出会った須磨にトランクを返そうとするが、黒めがねの男に奪い去られる。

山手の高級アパートに住む荒田未亡人（淡路通子）の一室に舞台は移り、黒めがねの男がここへ逃げ込む。フクの孫娘高校生のユリ（日夏悠理）を連れ帰つて来る

目下、舶来ミュージカルの上演で、その消化に懸念なミュージカル界のなかで、タカラヅカジエヌの魅力とは違った、バイタリティのあるジカルが、日本の、しかも地方都市をテーマにしたミュージカルとり組んで、新しい路線を敷き始めていることに拍手を贈りたい。

神戸がミュージカルの舞台になるのは初めてである。歌、踊り、芝居の三拍子の、麗しき乙女達で描かれた神戸はなかなか楽しい花売りをバイトにする弟、ハーフ（混血児）のジョージ、バタ屋のおばちゃん達、沖仲仕の宗やんなどに、神戸独特の人間臭が生き生きと演じられていることは、清く美しいタカラヅカジエヌの魅力とは違った、バイタリティのある美しさが新鮮だ。「ジェントルマン神戸」と「バラケツ神戸」の両面を巧みに織りなしたところは、神戸っ子作者の面目躍如である。（東京公演は5月）

神戸っ子の味覚に
ぴったり、又平の早馴れ鮓



神戸三宮生田ノ社ノ西

鮓の又平

電話・三の宮 ③ 0935

神戸肉の鉄板グリル

バター焼・鉄板焼
定食・¥650 ヨリ



Grill & Tea Room candle

バター焼
喫茶

きやんどる





神戸を楽しむ 私のコース⑧

(医師)

原口ちから

いつものように、XYZで外へ

出る。脱出するのだ。XYZ、外

にはZ時間が無限大に拡がる清澄な空がある。ただ、ただ……、何物かが私を追っかけて来る。そこで私の僕小な心臓が虚空へ向つて時を刻む。

冗漫な対話よ、骨を刺す電話のベルよ。ああ、もう赤白の議論は十九世紀の人々へ委ね、ヒステリックなオーレドミスのヒューマニティ、これは黙殺するとしよう。人生相談欄の回答者の破恋、ペダンティックな男の没面とも、もうお別れだ。ズン胴のダクスンの権威は抹殺してしまえ。

それから、詩人の恋も茶番劇といこう。

昨秋、十四年ぶりの秋から秋の東京の、しかし、ビルの谷間から垣間見たタワー。青春の墓石のようだ、底冷えだけが、いまだに残っている。

身をひるがえし突如、三宮駅へ



にくねって海岸通へ出る。

そこで私は、生臭い潮風を鎮静剤のように吸込み、最初の煙草に火をつける。

大小の汽笛、スクリューに泡立つ波、ドスのきいた仲仕の会話。ポンポンポン。どれも、これもみな、不協和音だ。もう、私の思考

に落ちた私の影、私の故郷がそこに落とした私の影、私の故郷がそこにあったのだ。

釣りドックの鉄骨が真っ赤な落陽に浮き彫りにされる頃、私は蘇生した自分と、その影とに対話しなければならなかつた。

どこをどう通ったのか、ほんとうに、どこをどう通り抜けたのかすっかり暮れ果てた裏町から私はここ、〈クラブ・シャトウ〉の片隅でビールを飲む。静かな、無関心に近いサービス。得難い、しかし、貴高い美德だ。

そこで私は、曉の広場で銃殺されたベトコン少年の童顔に思をいたし、モンゴール・ブリヤート族の仏僧のことを考え、三本目の煙草に火をつける。そして静かにビールを飲み干し、娘のような彼女たちに話しかける。

ジャンジャン市場を垂直に通り抜け、センター街の雑踏へ直角に紛れ込み、ビルの谷間を蛇のよう

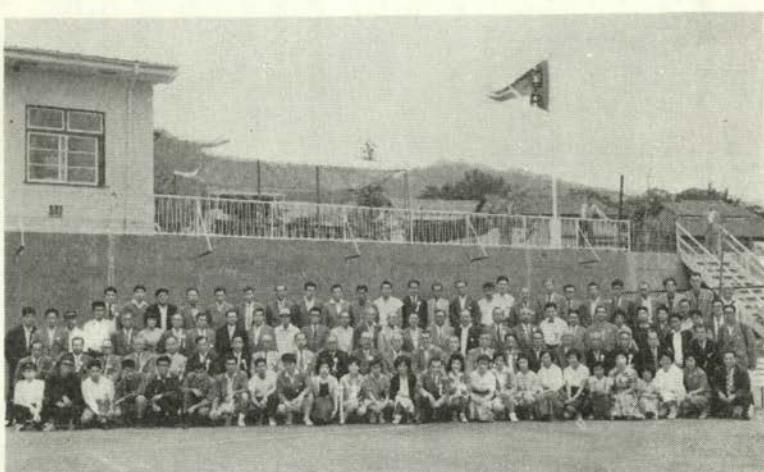
なのだ。私は私を蘇生さす。

しかし、私は再び、ここで身を翻がえし、公衆便所横を抜け、忍者と化する。

無気味な倉庫、苦斗した船底の一家団らんよ、美談製造者のホクソ笑みを拒絶せよ。漂う芥と油とに落した私の影、私の故郷がそこ

神戸遊戯誌

19



写真上・神戸ローンテニスク
ラブコート開き記念
撮影



写真下・右から石黒修、沢松
順子、沢松和子

硬式テニス④

雄木重青

戦後の二十年間も阪神間、とくに東神戸から西宮へかけての区間からは優秀な男女プレイヤーが輩出した（以下はいずれも神戸ローンテニス俱楽部の会員および同クラブに關係のあった人々）が、はじめの頃は戦前派の活躍が目立っていた。以前兵庫県庁に勤めていた清水弥次郎（日東鉱、23、26、28年度関西選手権大会シングルス優勝者、25年度全日本男子選手権ダブルス優勝、なお以下、関西選手権＝関西、全日本選手権＝全日本、全日本学生選手権＝全学生とそれぞれ略称を使う）はじめ田辺

信（慶大、神戸ローンテニスに一時在籍）木村雅信（関学出身、24、25、27、30年関西シングルス優勝）川副道彦（関学出身、21、22年同上）堀越、鶴原、木村保男などが代表的なメンバーだった。だが、25年頃から戦後派が進出してきた。古田勤、讓兄弟、田中泰三（以上関学）松岡功（甲南大）などで、古田勤は25年全学生で制覇、譲はのちにデ杯選手となり田中、松岡はそれぞれ、28、30年の全学生に優勝した。松岡は松岡汽船社長の息子で小林一三翁の孫だったが、

その後、父から一生テニスと商売のどちらを選ぶかと迫られて、結局実業界へはいった。30年頃から柴田善久

(関学)と石黒修(甲南)の二大プレーヤーが登場した。

柴田は神戸高校から関学へ、また、神戸ローンテニス俱

楽部の常連でもあるきつ紳の神戸つ子だが、とくにダブルスプレーヤーとして抜群で、25年全学生ダブルスで優勝したほか、卒業後は31年から加茂公成が引退したあと

宮城淳のパートナーとなり、32、35年二回全日本に優勝した。石黒は途中から慶應へ転校したが、全日本、全学

生、関東の三つの選手権をとったほか、加茂なきあとデ

杯戦にたびたび出場するエース的存在となり、また今年のデ杯選キャブテンに選ばれた。現在彼の妹千重子さん

が神戸ローンテニス俱楽部にいる。ほかに甲南大には藤井道雄、平野一齊のコンビがいて、石黒が全日本に優勝した36年、同ダブルスに優勝した。藤井は石黒と同様三

菱電機へ入社、現在はアメリカへ留学中また平野の父は芦有关発K・K会長の平野齐一郎氏である。同じ頃にデ

ビューして今まで活躍しているプレーヤーには、渡辺健一(神戸高校から神大へ)渡辺康二(甲南)兄弟、本井満(関学、神戸ローンテニス俱楽部会員)岡本好正(関

学、神戸ローンテニス俱楽部会員)市山哲(神大、現在クラブ籍はないが神戸在住)長崎正雄(甲南から慶應へ)らがいる。渡辺健一は27年に沢松正と組んで全学生

に優勝、市山は34年関西、長崎は34年全学生のシングルス、本井は37年関西ダブルスにおのの優勝しており、

市山、長崎(元デ杯選手)渡辺康二是本年度デ杯選手に選ばれた。このほか神戸には熱心なテニスマンがかなり

いるが、傑出したプレーヤーはあまりいない。
一方女子では、戦前派の戸田定代や辰馬妙子について二十七、八年ごろから村上喜代子(甲南)と松村洋子(神戸女学院)が登場、村上は神戸ローンテニス俱楽部のクラブ対抗戦や関西女子選手権に優勝し、松村もダブルスで同選手権をとったが、現在は東京へ移った。三十二、三年頃には神戸に在住の南方郁子、鶴崎珪子(旧姓

甲南)のコンビが高校時代から活躍、関西女子選手権の一回優勝した。だが、本当に阪神間の女子テニスの実力が全国的に發揮されたのは三十五年頃からである。

まず、村上喜代子の妹の登美子(聖心女学院から甲南大へ)が、木村洋子(甲南大)と組んで36、37年学生(女子の部)に二年連続制覇をなしとげた。木村はメキシコ帰りのすばらしい腕前の持ち主だった。38年には空野桂

子(神戸高校出身)が、小幡陽子(同志社大)と組んで全日本に優勝、戦後ほとんど関東側の加茂幸子と宮城黎

子に独断されていた選手権を関西へもたらした。小幡は日本代表としてヨーロッパを転戦して二月十三日帰国し

た。村上、空野と並んでもう一つのすばらしい姉妹選手はかつての名選手沢松豊の娘の順子(松陰高一年)和子(松陰中三年)の姉妹である。また沢松正は伯父に当

たり、さすがにテニスの名手の血を受けついでいるだけに、進境がすばらしく、昨年七月の関西ジュニアに組んで出場して優勝、また順子は同八月の全日本ジュニアで準優勝して、弱年で全日本選手権の出場資格を握った。和子の方も、この正月の甲子園庭球トーナメントで、昨年度関西女子選手権保持者宮崎選手をみごとなラケットさばきで破り優勝。関係者をアツといわせた。十四歳にしては抜群の力を秘め、39年度スポーツ記者クラブの推薦をうけた。現在関西きっての名コーチといわれる吉岡利治氏の指導をうけて、加茂、宮崎につぐ日本女子庭球界の王者になる日も間近かいものと注目されている。

戦後日本のテニス界の実力は、世界的なレベルからするとたしかに低下していることは事実である。この点について、小泉信三氏は「日本のスポーツの成績不振の事実は、『民主的緩慢』から来ていると思われるが、テニスもその例にもれぬ」といつている。このことに一面の理屈があることは否めまいが、量的にみれば(とくに女子の場合)戦前とは比べものにならぬほどテニス人口も幅広くなってきていている。硬式テニスプレーヤーの名産地・阪神間ゾーンの今後の奮励を大いに望んでおきたい。

神戸うまいもん巡礼

赤尾兜子

西洋料理の巻

食味界はわりあい世代の交替がすくないところだが、そうした分野のなかでもやはり時代の流れは如実に生きており、戦後派の経営者が現われてきている。神戸、それもとくに西洋料理の分野は、まだこれから独創を加える人がどんどん出てくることがいいし、料理の品質からいつてもその余地があるから、私も若者マスターの出現に大賛成である。

そういう二店をあげる。

一店は生田神社東門筋を北へ上った左側にある「ケンズ」(生田区下山手通一丁目)である。マスターはオーラインタル・ホテル出身で三十三才の埴岡健君。その名

マスターのほかに五人のボーイがいて、女性はまったくない。白いコック帽をついた男性ばかりのサービスは、かえって清潔な感じがするものだ。カウンターの高

椅子にすわると、客とボーアが一対のかたちになる。メニューは西洋料理の数十種あって、好みによって注文することをすすめるが、一、「ぬきだすと、エビ、カニ、飯グラタン」(三五〇円)が一般向きにいい。トマ

で焼いたエビとカニのグラタンをのせてるが、ややこさんがあり焼いたグラタンが、ご飯とまじって、個性的にまとった味。また「子牛のチーズ焼」(三〇〇円)はフレンチドレッシングをかけて食べるが、子牛の品度のいい味に、季節の野菜、トマト、レタスなどがゆったり盛

りつけてあって、値段とひきくらべても十分に満足する。ビーフカツレツ（三〇〇円）からスペゲッティ（二〇〇円）とほとんどのメニューが二一三百円代でとまっているから、誰もが安心してゆける店もある。

りつけてあって、値段とひきくらべても十分に満足する。ビーフカツレツ（三〇〇円）からスペゲッティ（二〇〇円）とほとんどのメニューが二一三百円代でとまっているから、誰もが安心してゆける店もある。

三宮バー街の中心にあるものの、クロウド筋の客がほと
んどないのも特色。
もう一店は、外人間にもその名が知られた「鹿鳴皮」（あ
らがわ、生田区中山手通二丁目）である。炭焼きのあつ
さり仕立てのビーフステーキが、名実ともに看板。マスター
は三十五才の山田二郎君。戦後駐留軍で皿洗いなど
しているうち、持前の眼と器用さで、ひとつやってやろ
うと、この店をはじめた。といってはじめは生田神社の
東門筋に、小店を持ち、そのきさくな性格といい仕事で
客を集め、いまのフンキキただよう大店へと出世したの
だが、このころでは、いいステーキ肉といえば、十年前
はホテルぐらいしか使わなかつたのに、いまは需要がぐ
んとふえ、過当競争で、ロスの多い肉の上に、値が高
く、しかもいいものは入手がむつかしくなつた。これか
らがほんとうの商売でしょう」と、ズバリ裏幕までいっ
てのける。それだけ自信もあるらしい。また料理全般に
ついてもなかなか口がうるさい。

じぶんみずから考案した炉で、馬目の炭火をつかって、脂身を切りすてた肉を串さしにして焼く。味は塩とこしようだけ。じまんの自家製サラダに、日本的に有名なフ

ロイント・リープのパンをつけたが、こここのステーキ（七〇〇円から）マスターのほかにコックさんが二人。サービスはコック自身である。

ステーキの、味のほとんどの勝負は肉できる。だから肉のうみぐあいまでよくみて、念入りに掃除、ズバズバロスを出して平気な顔をしている。客は、阪神間在住の外人はじめ、外人クラブ、KRCのメンバー、それに定期的に来日するバイヤー、船舶関

チーズ焼き・エビのオードブル
写真は「ケーンズ」のエビ・カニ飯グラタンと子牛の



写真は横濱川自慢の炉で焼く神戸肉のステーキ



係者、パイロットなど外人六割に、日本人四割というところ。鳥料理、魚料理もできるので、その方の腕をみてみるのも一興だろう。

昨年の東京オリンピックに、マスターの山田君は、ノルウェー領事に依頼されて、約一ヶ月店を開け、ノルウェーヨットチームの万般の世話に上京していた。東京での食事のまさに、さんざん閉口して神戸へ帰ってきたようだが、近く生田神社東門筋の旧店も開いて、そこでは割安のステーキをはじめるというから、楽しみがまたひとつふえそうである。

記者会見紳士

文・竹田洋太郎
え・鴨居玲

紳士であるあなたは、すでに「記者」なる人物を見たことがあります。あなたのところへ、経済の見通しをたずねにきたかも知れず、あなたがさるバーで飲んでいるとき、隣りでにぎやかに飲んでいたかも知れない。そのとき記者は、あなたに話しかけていなくても、あなたの言葉に注意深く耳を傾け、人物を観察しているのである。恐しいことではないか。

しかも、かつて「記者」といえば新聞記者のことであった。ところが、近ごろはさまざまの大衆伝達媒体が発達して、放送記者から週刊誌記者、雑誌記者から特派記者（週刊誌が使う社員でない記者）一日記者もあれば、万年記者もある。その担当部門は多岐に分れ、事件記者から競馬記者、海運記者からヌード記者（記者がヌードになるのではない）まであって、さながらゴキブリのように多い。これらを一括して最近は「マスコミ屋さん」といふようである。

この記者諸公にどう対処するかは、紳士ならずとも、現代人にとって重大な問題になってきたのである。「地震マスコミ火事女房」が恐いものの代表とされる時代である。

そして彼らは、中共向けプラント輸出に対する意見、芸者の社会的効用、期待される人間像、あなたのゴルフのハンドディ等々、なんでもたずねる。また、ときには、わが社の新製品が画期的なものであることや、今回増資に踏み切った理由や、政府の対策のなまぬるさ等々を記者諸公に発表しなければならない。それらの場合

のいくつかの原則を挙げておきたい。

まず、記者もしくは記者団から説明を受けたとき、紳士としては単純明快に答えてはならない。複雑な問題については複雑に答える。また、記者に決してウソをつけはならないが、ほんのことをいうべきでもない。ただし最後に「君はどう思う」といってはいけない。すると大抵の場合、こちらの意見よりも、記者の意見が、あなたの意見として新聞等にのることが多く、あとで「××発言事件」に発展するおそれなしとしない。

もしあなたの発言で結論が出されていないと、A紙はAという結論をつけ、B紙はBという結論を加えることがある。新聞によって同一発言を全然反対の意味で書いたりするときは、実に気持ちのいいもので、両紙を切り取って保存しておくに値するだろう。

さらに複雑な質問を受けたときは、むしろ答は簡単明瞭に「うん、それはいま勉強中だ」でよろしい。なかには、かつての日銀総裁一万田氏のように「そういう質問をするようじや、君、勉強が足らんね。こんどまでによく勉強しておきたまえ」などいうもあるが、これは魔王といわれた氏にしていえることで、一般の紳士は試みるべきでない。むしろ謙虚に、いろいろの立場からいろいろして、果してなにがなにやらわかるように答えることをおすすめする。

ただし、新製品の発表、増資の発表等、こちらがニュースとして掲載を希望する問題については、直截に、そのまま記事になるように、堂々と記者の質問に答えるべ

「別冊紳士入門図解」



今月は我ながら一寸高度な挿絵を描いてしまったが、理解していただけるだろうか。この挿絵を描いてフト思い出したが、三宮にとても偉い文化人やお坊さんのよく集るうなぎ屋さんがある。その御主人がまた絵を描いたりなかなか面白い人で、その店の二階の座敷に「本来無一物」と書かれた軸がかかっている。素晴らしい書だと思う。ところで洋太郎師匠の高弟である私は今度その店でたらふく飲んだり喫たりした後に、その軸をぱっと店の主人に見せて店を出てやろうとひそかに楽しみにしている次第である。

「酒徒番附」で敢斗賞をいただいたにしては、ちと、はしたないかな——。
レイ・カモヰ

きである。最近パブリシティ（企業等がマスメディアにニュースを提供する活動）の必要が叫ばれているが、これはこのごろはじまつたものではなく、昔から、すぐれた紳士は、立派なパブリシティ・マンであった。記者諸公から本名でなく、愛称をもって呼ばれている財界人はみなそりあろう。

要するに記者との会見においては、誠心誠意、高度の紳士通を發揮すればよいのである。たとえば、記者会見においては、充分時間をかけ懇切丁寧に、納得のいったよう話をし、さて記者が記者室に、あるいは社に帰り、鉛筆をとったときに、はたして何から書いていいやらわからず、思わず筆を投げたくなる、と思わせたら、堂に入つたものということができる。現佐藤内閣では橋本官房長官がしばしば食言、訂正などを行なっているが、実は

これは官房長官が記者の質問に対し明快に答えるからである。かつて黒金長官の時代には、こういうことはありませんなかつた。これは含み声のうえ、語尾が不明瞭で、しかも問題を広くとりあげ、深く掘り下げ、結局なんともわからぬように語っていたからであろう。

こういった企業、団体等関係で記者と会見するのではなく、一身上の問題、たとえば、あなたに七人の子供があるが妻に死に別れ、後妻として直木賞作家の女性をめどるといった場合は極めて慎重な態度が必要である。そんな際には筆者が個人的に指導してもよいから月刊「戸つ子」編集部に問い合わせられたい。ただし、あなたが有名な某女優と恋愛関係にはいり、週刊誌がかきつけてあなたに面会を求めたときは、勝手にやっていただきたい。相談にのるのもはからしいからである。